

2022年10月に開始した、ココバッグを使ったキュウリ養液栽培試験が、9月中旬で終了しました。今回はその結果をご紹介します。

【耕種概要と試験内容】

定植：2022年10月6日  
品種：ニーナZ・勇翔・プレスト 台木：ゆうゆう一輝(黒)  
栽植密度：ココバッグ2株定植(10aあたり900株)  
環境制御：ProfarmControllerによる自動制御

①仕立て方の比較：

子蔓4本仕立てで、更新型とストレート型を比較

②作型の比較：

年1作型(10/6定植→7月まで)と  
年2作型(10/6定植→3月改植→9月まで)の比較

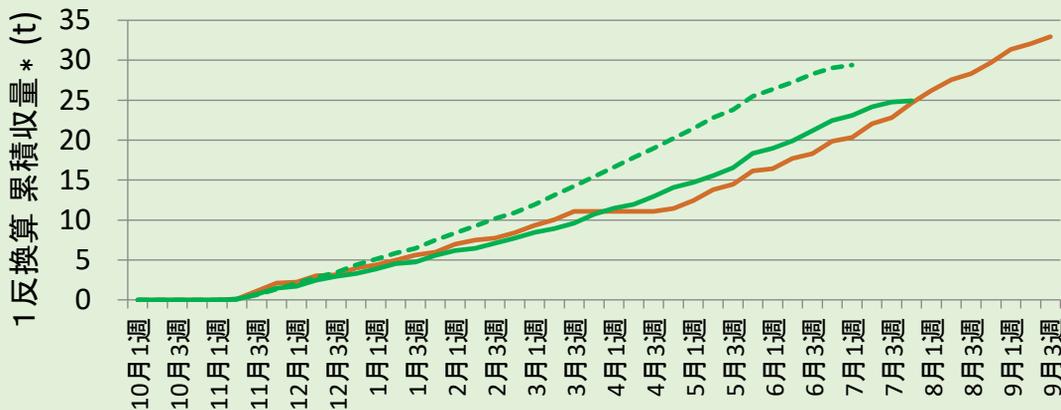
【栽培管理】

給液量：株あたり1回150~200ml 1日あたり2L~6L  
肥料：トヨタネTF濃縮とまとS EC1.8~2.0  
温湿度：日中24~26°C80%、夜間13~15°C85%  
CO2濃度：日中500~700ppm



【結果】

— 年2作 ニーナZ→ニーナZ      — 年1作 プレスト更新型  
- - - 年1作 プレストストレート型



\* 1バッグに2株定植、1反450/バッグ900株で計算

【結果の要約】

- 更新型仕立ては、ストレート仕立てと比較すると収量は2割程度減少した。
- 年1作型は反収30t程度、年2作型は33t程度の収量が見込める。
- ココバッグ栽培では作終わりから次作定植までが土耕と比べて短くできるため、年2作型での無収穫期間は 約1か月程度だった。